

楽座新聞 目次（活動報告会発表順）

楽座新聞 らくざしんぶん

プロジェクト名（チーム名）	区分（継続年度）
 未来看護塾（未来看護塾）	継続（2004 年～）
 男鬼楽座（男鬼楽座）	継続（2004 年～）
 政所茶レン茶`ー（政所茶レン茶`ー）	継続（2013 年～）
 障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト（ボランティアサークル Harmony）	継続（2004 年～）
 内湖における侵略的外来種駆除（滋賀県大 BASSER`S）	継続（2011 年～）
 町活 in 八幡（三階蔵部）	継続（2013 年～）
 とよさらだプロジェクト（とよさらだ）	継続（2009 年～）
 たけとも一竹の会所 友の会ー（たけとも一竹の会所 友の会ー）	継続（2012 年～）
 とよさと快蔵プロジェクト（とよさと快蔵プロジェクト）	継続（2004 年～）
 Taga-Town-Project（Taga-Town-Project）	継続（2004 年～）
 木興プロジェクト（木興プロジェクト）	継続（2011 年～）
 かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPING BEAUTY-（かみおかべ古民家活用計画 SB）	継続（2012 年～）
 地域博物館プロジェクト（スチューデント・キュレーターズ）	継続（2012 年～）
 フラワーエネルギー「なの・わり」（フラワーエネルギー「なの・わり」）	継続（2005 年～）
 たのうらまちづくりプロジェクト（田の浦ファンクラブ学生サポートチーム）	継続（2013 年～）
 信・楽・人 -shigaraki field gallery project-（信・楽・人 -shigaraki field gallery project-）	継続（2007 年～）
 あかりんちゅ（あかりんちゅ）	S 継続（2009 年～）
 おとくらプロジェクト（おとくらプロジェクト）	継続（2010 年～）

※プロジェクト区分について

新規プロジェクト：平成 16～26 年度に、近江楽座の助成を受けたことがないチームによる取り組み
継続プロジェクト：平成 16～26 年度のいずれかに、近江楽座の助成を受けたことがあるチームによる取り組み
S プロジェクト：「近江楽座」での実績をもとに、さらなるステップアップをめざすプロジェクトで、活動資金の助成を必要としないもの

平成 26 年度
近江楽座活動報告会号

近江楽座の 18 のプロジェクトが活動をまとめた新聞です。

これらの新聞・ポスターは、基本的にレイアウトが自由なので、チームの個性がそのまま紙面に出自ていることも特徴です。楽座メンバーの自信作“らくざしんぶん”をぜひご覧ください。この資料では全て白黒になっていますが、下記「活動成果展示会」におきまして、原稿のカラー版を展示します。ぜひお越しください！

2014 年度 近江楽座 活動報告会 ＜プログラム＞

2015 年 4 月 18 日（土）9:30～16:15
講義棟 A3-301

1. 挨拶・プログラム説明

2. 活動発表

全 18 チームが 4 つのパートに分かれて活動報告を行います。

【パート 1】 9:45～10:45
紡ぎのカタチ①「継ぐ」

■司会進行：秦憲志（近江楽座事務局）
未来看護塾／男鬼楽座／政所茶レン茶`ー／ボランティアサークル Harmony

【パート 2】 10:55～12:10
紡ぎのカタチ②「耕す」

■司会進行：濱崎一志 先生（人間文化学部教授）
滋賀県大 BASSER`S／三階蔵部／とよさらだ／たけとも一竹の会所 友の会ー／とよさと快蔵プロジェクト

【パート 3】 13:40～14:40
紡ぎのカタチ③「器」

■司会進行：ジョン・リピー 先生（人間文化学部教授）
Taga-Town-Project／木興プロジェクト／かみおかべ古民家活用計画／スチューデント・キュレーターズ

【パート 4】 14:50～16:05
紡ぎのカタチ④「技」

■司会進行：印南比呂志 先生（人間文化学部教授）
なの・わり／田の浦 FC 学生 ST／信・楽・人／あかりんちゅ／おとくらプロジェクト

10 周年事業の取り組み
12:10～12:40

近江楽座アーカイブの紹介 ー事務局
「学生地域活動交流キャンプ in 琵琶湖」報告 ー近江楽座学生委員会

3. 全体総括

活動助言者・紹介

今年度のチームの活動をこれからに生かしていけるよう、事業を客観的にみていただいて、各チームの活動に対してのアドバイスをしていただきます。

石野啓太 氏
（信楽焼窯元 明山窯）

滋賀県立大学在学中、信・楽・人 -shigaraki field gallery project- の立ち上げより参画、2 代目代表。2010 年滋賀県立大学大学院環境科学研究科修了、近江環人称号取得。卒業後、建築設計事務所 OpenA を経て、現在家業の信楽焼窯元明山窯に所属。陶器製品の作陶・デザイン／企画開発に従事しながら、一方で、信楽の魅力伝えるべく、まちづくり事業の企画等にも継続的に携わりながら活動している。

田口真太郎 氏
（株式会社まっせ）

2006 年に滋賀県立大学に入学し、近江楽座では木楽部会や信楽人でものづくりを通じた地域活動に携わり、地域住民と共同し課題解決に取り組む現場を体験。2012 年、滋賀県立大学大学院環境科学研究科修了。4 月より、在学中に調査研究等で関わった近江八幡市で、地域おこし協力隊として空き町家の再生活動に取り組む。現在、2013 年に設立したまちづくり会社(株)まっせのマネージャーとして、地域の自然や伝統文化を活かすプロジェクトに携わる。

活動成果展示会を行います！

18 プロジェクトの「活動成果展示会」を 4 月 22～28 日に交流センターホワイエで行います。活動発表だけでは伝えきれない各々のプロジェクトの成果をぜひご覧ください。



みらいかんごじゆく

未来看護塾

チームのビッグニュース！

10月11日～13日にかけて、宮城県南三陸町田の浦地区で「いきいき健康交流ひろば」を開催しました。

未来看護塾では、2012年より田の浦地方の方々と関わらせていただいています。東日本大震災後から毎年、未来看護塾が被災地を訪問して、今回で3回目でした。田の浦ファインクラブの協力のもと、1年かけて企画・準備をしていました。

今回は準備段階からトラブルが多く、苦労しましたが、メンバーたちひとりひとりが考えて行動し、臨機応変に行動してくれました。困難が多かった分、メンバーたちの団結感も高まりました。



今回の「いきいき健康交流ひろば」では、4回生3人、2回生10人、1回生13人が参加し、健康チェックやハンドマッサージ、足浴、ちびっこ広場、伊丹スープ（人間看護学部教授・伊丹先生考案のスープ）を設けました。

会場の関係で昨年までに比べると規模は縮小しましたが、その分より深い交流ができました。その場の判断で、地域の方々へ肩もみマッサージを提供し、まるで祖父母と孫のような関係を築き、温かいイベントとなりました。

また、参加者と一緒にAKB48「心のプラカード」に合わせてダンスを踊り、笑顔あふれる楽しいひと時となりました。さまざまな支援がある中で、看護学生だからこそできる支援を提供するこのイベントを今後も提供していきたいです。

プロジェクト紹介

未来看護塾では、地域の人々と共により良く生きていくことをめざし、医療現場や地域で働く看護職、ボランティアの人たちとの交流を通して、「未来の看護のあり方」を考えています。

活動の内容としては、彦根市立病院の小児科病棟で子どもたちと遊んだり、緩和ケア病棟でティーサービスや、花の水やりなどのお手伝いをしたりしています。

その法人ほぼハウスでは、障がいのある子どもたちと料理を作ったり、一緒に外出するなどイベントに参加しています。また彦根市立城南保育園では園児たちとの遊びを通して、乳幼児の発達段階を実際に触れ合うことで感じています。今後は、地域での健康教室や今回訪問した田の浦の支援活動も継続して行っていく予定です。



地域の声



当法人が運営する障がい児通所支援施設では、様々な障がいを持つ子ども達が放課後の余暇を過ごす中で社会生活体験活動にも取り組んでいます。また、その多くの子ども達が日常生活を送るだけでは、社会の人々と関わりを持つ機会は限られているのが現状です。特に学生の皆さん方に年齢の近い子ども達が利用する「はばたき」では、自分の想いを伝える事の苦手な子ども達が、笑顔で一生懸命に自分の想いを伝えたり、寄り添う姿は、日常的に関わる私達スタッフとの対話で見せる姿とは、異質のいきいきと光り輝く表情です。これは来訪して下さる、未来看護塾の皆さんが子ども達により近い感覚で温かく寄り添って下さる事で表出される唯一無二のものだと感じています。自分の想いを相手に伝える事は、子ども達が社会に出た時に「教えてほしい」「手伝ってほしい」と伝えられる力につながるもので、社会生活をする中では、必要不可欠な生きる力となります。



ちよつときいてよ！プロジェクト自慢

未来看護塾は、滋賀県立大学の看護学部生のみが参加しています。入学してすぐに先生や先輩方からの紹介があり、看護学部新入生の多くが加入します。新入生歓迎会、定期活動、イベントの打ち上げなど、同期だけではなく、先輩方と関わる機会が多くあるので仲良くなれます。そのため、看護学部では縦の繋がりが多く、勉強や進路の相談（時には、恋の相談も…笑）、最近ではサッカーをすることもありました。とにかく、未来看護は仲がいい！



私たち看護学生は、日頃は学校での講義を受け、年に数回の実習で看護について学んでいます。1・2回生については、年に1度しか実習がなく、なかなか自分の目で現場を見る機会はありません。未来看護塾の活動の場は地域から病院まであり、定期活動でも患者さんに関わるという、看護学生にとってたいへん貴重な経験ができます。未来看護での経験は実習で活かせ、また実習での経験は未来看護で活かすことができるのです！



1年間の活動を通じた成果と課題

今年度も様々なイベントを通じて、様々な年代の方々と交流できました。特に田の浦でのイベントは、私たちがイベント作りに関わっていくという貴重な経験ができました。地域の活動・イベントにも参加していくことで、地域の健康維持・意識向上にも関心をもちました。

一番の課題としては、一年を通して参加メンバーが固定されてしまっていたことや参加率の減少がみられたことです。未来看護塾のメンバーは多いのですが、継続して活動に参加しているメンバーは限られています。今後は、多くのメンバーを良い意味で巻き込み、さらに活動を充実させていきたいと思っています。

そのほか、活動記録として写真を残すようにすること、みかん通信などの広報面の強化、新たな活動やイベントの考案を課題として来年度には取り組みたいです。

また、イベント後の話し合いの場をきちんと設けて次の活動にフィードバックさせていく必要があると思いました。活動から学んだことを未来看護塾が共有し、活動のレベルアップを常に目指していきます。





男鬼楽座新聞

～未来を紡ぐ、男鬼の茅葺き～



2015/3/31

プロジェクト紹介

男鬼楽座の「男鬼」とは？



男鬼は滋賀県彦根市の東の端、多賀町との境目にある山村集落です。現在住んでる人はいませんが、茅葺き民家が残し、周りの自然と一体となって昔の集落景観をとどめています。昭和 30 年後半から住民の離村が始まり、昭和 46 年には、最後の移住者が離村しました。その後細々と利用されていましたが、荒廃は進んでいます。

男鬼楽座では、そんな男鬼の文化を守るための事業として、男鬼に残る茅葺き住居の茅葺き屋根葺き替えイベントを実施しています。

ちょっと聞いてよ！プロジェクト自慢

ーイベント参加者、昨年度より増加ー

今年度は男鬼での茅葺き屋根葺き替えイベントを 7/19,20,21 の三日間開催しました。それぞれ 39 人、29 人、18 人の参加者があり、三日間で述べ 86 人が茅葺き屋根の葺き替え事業に携わりました。この数字は去年よりも大きく、事業規模の広がりを感じます。



イベント参加者の声

ありがたいことに参加者の皆様から、このイベントに参加して「楽しかった」「また来たい」という声をいただいています。今後のイベント開催の際にもこの声を忘れずに、安全で楽しいイベントを提供できるよう励みます。



チームの重大ニュース

ー男鬼の事業、継続 10 年を突破ー

参加者の皆様の支えあって、男鬼での活動は 10 年以上継続するプロジェクトとなりました。この折に、男鬼という地が建物の文化的な価値だけでなく、茅葺き屋根の葺き替え体験の場所としても価値を得てきたものとして実感しています。



活動の成果と課題

今年度のイベントでも多くの参加者のもと、男鬼の文化の保存に努めることができました。

しかし現在の男鬼の活動は保存行為にとどまっているので、今後は男鬼の地域をもっと活用できるような事業を展開していければと思っています。

2014 年 葺き替えイベント



Before



After

政所茶レン茶`ーとは

滋賀県立東近江市政所町にて、お茶づくりを通して地域活性化にチャレンジするチームです。

滋賀県立大学の授業「地域再生システム（特）論」をきっかけに 2012 年 9 月に活動が始まりました。メンバーは学生、教員のほかに本校の卒業生や社会人など、政所やお茶づくりに関心のある人を広く募集し構成しています。

お茶づくりに挑戦しながら、お茶はもちろん歴史や暮らし・文化など政所の魅力を発信することがわたしたちの任務です！



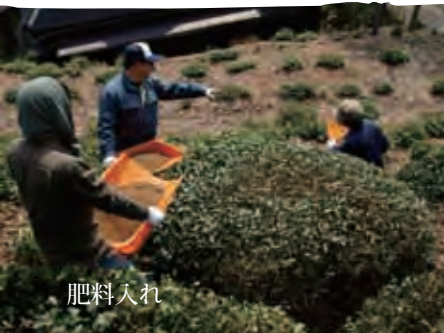
まんちゃん

現在、「飛び出し坊や」ならぬ
「飛び出しまんちゃん」看板製作中
…どうぞ期待！！



いつも、みなさんの
ご協力には深く感謝します。
お疲れさまでした！！

参加費：1,000 円
(保険の加入・昼食・新茶の特典 付き)



肥料入れ



台刈り・整枝作業



東近江スタイル



奥永源寺物産展



情報紙の配布

月に一度、私たちの活動をお伝えする情報紙「茶レン茶`ーナル」を発行し、政所全戸に配布しています。地元の人に出会うと、「いつも楽しく読んでいるよ」と仰って下さり元気が湧きます。

アメニモマケズ、カゼニモマケズ、頑張ってくれましたね。
僕の拙いお茶づくりの指導をよく理解してくれて、慣れない仕事に皆で一生懸命取り組み努力してくれたことに感謝している。
正直言っていつ挫折されるか半信半疑の時もありましたが、初めて君達の摘み取った新茶が出来上がった時、皆が袋の中を覗き込み驚嘆しながらうれしさ一杯の笑顔を見せて喜んでくれた事が忘れられない。
茶レン茶`ーの組織は、すでに政所町内は言うに及ばず奥永源寺内に知れ渡り今後の活動が大いに期待されている。
4年間の学生生活の中で継続していくことはなかなか大変な事ですが、英知を結集して有名な政所茶の存続の為に末長く皆さんの力を貸して下さい。

今年も茶園が君達を待っています。

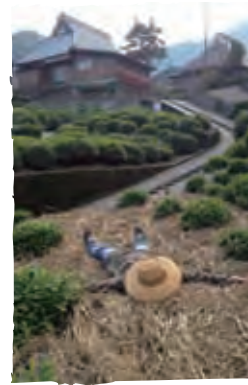
白木 駒治 さん
(茶レン茶`ーの師匠)



政所

茶レン茶！

近江楽座
活動報告新聞



茶レン茶`ーの活動で一番の大イベントとなるのが 5 月下旬から 6 月上旬にかけて行われる一番茶の収穫です。普段の茶畑作業では、主にメンバーが中心になり行っていますが、この作業ばかりは多くの人たちに体験してもらいたく、昨年に引き続き今年もイベントとして参加者を広く募集しました。(というより、大作業のため人手を切実に欲していました…！)

茶摘みは時間との勝負、前泊しているチームは日が昇ると同時に作業が始まります。この日のために、朝早くから、また遠方から足を運んで下さる気合いの入った参加者がぞくぞくと茶摘みに専念してくださいました。なんと今年は昨年を上回り総勢 70 名以上が集まりました！



こんにゃく植え



茶袋詰め



お茶の商品化 6 月に摘んだ一番茶は JA の工場製茶作業をしてもらい、7 月に政所茶の煎茶として完成。パッケージ作成・袋詰めなどを行い、一般に向け販売しました。

イベント出展

政所や私たちの活動を知ってもらうべく県内外のイベントに参加し、自分たちの政所茶の販売と合わせて活動紹介を行いました。

一年間を振り返る

今年度は、昨年度同様に茶レン茶`ーの土台づくりに力を入れるような一年間だった。特別大きな事を為し遂げたわけではない。しかし、全てが初めてのなか手探り状態で実践してきた活動発足当初の作業を、今年は一つ一つ確認し直すことができた。

代替わりの時期に入る。発足メンバーが徐々に活動から離れていく中、茶レン茶`ーの活動形態も次ぎに引き継ぐメンバーたちの個性が引き出されるようなものに変化していくべきだ。やりたいと思うことにはもっと積極的に動きたい、逆にやりづらい事に対してはどんどん手直ししていく。今年行った確認作業を来年度からの活動に活かしていきたい。

活動の中に新たな挑戦を試みても、これまで築き上げてきた地域の人とご縁は変わらず大切にしていきたい。というよりも、もう少し地域との距離を縮めていけたら…。世代は違えども、これまでの活動からも分かるように地域の方々は私たちに対してとても良くしてくださった。緊張しているのは私たち学生なのではないだろうか。世間話をする感覚で、もっと政所の人たちとの関係性を深められるよう心を解していきたい。

＊チームのビッグニュース
信楽人の方々の夢の初コラボ
（陶芸体験）

例年お泊まり会の際に、子供たちと様々な体験活動を行っています。昨年度はブルー目の丘に行き、メイソープेंटとしてソーセージ作り体験をしました。

今年度は信楽で茶碗作りの体験をしました。陶芸は初めての体験で子供たちにとって難しいものでしたが、信楽人の方々が丁寧に教えてくださり、また子供たちと学生が協力あつて素晴らしい作品を作り上げることができました。出来上がった茶碗は定例活動のお茶会の際に使用しています。



＊プロジェクト紹介

ハーモニーは障がい児・者とその家族、支援者などからなるNPO法人「障害者の就労と余暇を考える会メロディー」専属のボランティアサークルです。

メロディーは地域の人たちの理解の中で普通の生活をしたい、働きたいという障害者の願いを実現させるため、障害者の社会参加を促進し、就労の自立を図るとともに余暇活動をはじめとした豊かで充実した社会生活を支援する団体です。ハ

ーモニーというサークルの名前は、メロディーにハーモニーを奏でるという意味でつけられたそうです。私たちはそんなメロディーに所属する四歳から二十二歳の他人とコミュニケーションをとることに

困難が生じる自閉症やダウン症などの障がい児・者と、その兄弟とともに様々な活動をしています。メロディーに所属する障がい

児・者には色々な人がいます。学生は障がい児・者を相手にしていくわけなので、不安だったり、何をしたいのかわからなかったり、ということが起こります。そのような状況の中でメロディーさんの方から、「活動の中で、もしも何かが起こった場合には、すべての責任は私たちがとる、だから学生たちは、安心して積極的に活動に取り組んでください。」という言葉を何度もいただき、私たちはこれまで活動を続けてくることができました。

ハーモニーの活動は「自分からは、楽しいこと面白いことを見つけたことが苦手な子どもたちに、こんなに楽しいことがあるのだなって感じてもらうお手伝いをしていただけませんか？」というお母さんたちの呼びかけから始まり、十年以上ハーモニーの活動が続けられてきま



＊地域の声

私たちメロディーはハーモニーの学生さんに十年以上専属ボランティアとしていろんな活動でお世話になっていきます。福祉を学ぶ学校ではないのに私たちの活動に興味を持ってくれた学生さんが現在二十名ほどいてそれぞれに自分ので

私たちがメロディーがハーモニーの学生さんに求めていることは、自分たちが楽しい活動です。学生さんが楽しいことを障がい児・者のメロディーのメンバーが楽しむこと、そしてそれをメンバーの兄弟にも楽しんでもらい両親にも笑顔になっ

メロディーの皆がハーモニーの手を借りることにより多くの人に出会い、いろんなところに行き、自分たちだけではなかなか出来なかったことをできるようになり、世界がもっと広がり成長へとつながります。最初は私たちメロディーが計画を立て準備をしていたのですが学生の中で担当を決めてくれ任せられるようになりました。

今年度はお茶で使うお茶碗を信楽で作ってはどうかという学生さんからの提案もありました。私たちは親はすぐにこの子たちにはできないとあきらめてしまいましたが、ハーモニーのおかげでやってみようと思えます。

ハーモニーの楽しそうな笑顔の中にメロディーのメンバーの自然な笑顔を見るといろんな人のかかわ

りの大切さをあらためて感じます。普通に楽しいことをあたりまえに同年代の人たちと楽しむ、そんな力をハーモニーからいただいています。

＊ちよつと聞いてよ！

プロジェクト自慢

（本格的なお茶会を目指して）

お茶会は定例活動の時に毎回行っている活動です。茶道には一連の作法があります。また静かにして正座しなければなりません。苦くてお茶を飲めない子も多く、子どもたちにとってあまり楽しい活動ではないかもしれません。しかし、このような決められたことをすること、決まりを守るようになったり、協調性を身に付けたりできるので、この時も学生が横について作業をすること、何度もやっていくと自然と子どもたちはそれをまねするようになります。

しかし、これまででは、正しい作法を身につけている学生が少なかったために、子どもたちにもきちんとした作法を伝えることができませんでした。そのために昨年度は二人の学生が三か月間お茶の先生のもとに通い、正しい作法と子どもたちへの指導法を学びました。

今年度では、二人が習ったことを他の学生にも伝え、学生みんなが子どもたちに指導しました。まずは、お茶会の雰囲気を変えることから始めています。これまでの騒がしい落ち着きのない状態から、静かで緊張感のある空間を学生が作りだし、子どもたちがそれをまねするように回数を重ねています。急に難しい作法を覚えるのは学

生でも大変です。しかし、大切なのは作法を覚えるのではなく、お茶を通してルールや協調性、思いやりの心を身につけることにあります。これこそ簡単にできることではありませんが、子どもの成長を継続的に見ることができるハーモニーであるからこそ可能なことだと思います。



＊一年間の活動を通じた
成果と課題

初めて障がい児・者たちと触れ合った時は、接し方もわからず、戸惑うことばかりでした。でも、一つの活動を通して行くうちに少しずつかわり方がわかるようになってきました。また、一緒に学生と活動することで障がい児・者さんたちに人と触れ合うことの楽しさを伝えることができた。

また、それだけではなくお茶会や陶芸などの体験をしてルールを守ることの大切さや達成した時の喜び、自ら考えて行動する力を身につけてもらえるような活動を行うことができた。その際、学生も障がい児・者のすることを何でも手伝うの

ではなく、自分でできることは、自分でしてもらおうということや、自分がしてほしいことを押し付けるのではなく、障がい児・者が何をしたいのか、また何を言いたいのか、ということを書いてあげることが大事だとわかった。

課題としては自分の担当する障がい児・者さんがいるのに、学生たちで話し込んでしまい、自分の担当する障がい児・者さんがどこか行ってしまうということがあった。自分が楽しむことも大事だが、担当についているということをお忘れはいけないと思った。

また、夏のお泊まり会が台風によって中止になったことや、いも掘りが雨で中止になったことが残念だったので来年度は活動できたらいいと思います。

（「カヌー体験時の様子」）



守ろう！琵琶湖の在来種

ばさあず瓦版

？滋賀県大 BASSER'S って？

滋賀県立大学の学生団体「滋賀県大 BASSER'S (バサーズ)」は琵琶湖の外來生物問題に学生として何かしたいとの思いから、釣り好き、魚好き、生き物好きな学生が集まって発足した。学生として他の学生や地域へ働きかけ、地元の水域環境を守ることを目的としている。主な活動は、琵琶湖の内湖における月 2 回ほどの外來魚駆除と在來魚類のモニタリング。獲った外來魚はできるだけ胃の内容物や耳石による年齢の確認も行なっている。そのほか、外來魚駆除釣り大会やお魚採りイベントの自主開催、学生向けの勉強会や県と連携した活動、大学祭でのブース出展もしており、地域との連携、活動の展開が期待されている。

“川ガキ” 保全 2 大イベント開催！



← 釣り大会の様子



→ 外來魚の解剖体験



二〇一四年六月二十八日、滋賀県大 BASSER'S では、地域の人に外來魚問題について学んでもらおうと、「第四回外來魚駆除釣り大会」神上沼を開催した。

当日は、明け方まで雨が降っていた曇り空の中、釣り開始から続々とブルーギルが釣れた。また、解剖では、オオクチバスの胃から魚類やエビ類が出てくる様子を観察できた。参加者は「ブラッパスのお腹から魚がいっぱい出てきてびっくりした」と、オオクチバスが在來魚を捕食している現状に驚いていた。

実際に釣りをすることで、外來魚が多く釣れる現状を感じてもらった。また、解剖を同時に行なったことによって、外來魚問題の一つである「食害による在來種への影響」に参加者に知ってもらうことができた。

地域の人々が身近な環境の生き物について知ることには非常に大切である。このようなイベントを継続して開催し、地域の中で生き物に関して興味を持つ人が徐々に増えていくことが今後の目標である。

みんなで外來魚駆除
解剖体験も

水路を探検！ 県大水路探検隊



→ 水質調べの様子

二〇一四年十月二五日、滋賀県大 BASSER'S では秋のイベントとして、「県大水路探検隊」を開催した。開催地は、県立大学南駐車場そばを流れる水路であった。

参加者と水路に入り、魚とりを行なった魚とりの後は、採れた生き物の説明を行なった。生き物をプラケースに移し、参加者の目の前で生き物を展示しながらその生き物の生態などについて解説した。

続いて、水路の水質調査を行なった。参加者が入る前の水路の水を用意し、参加者全員で COD パックテストを用いて水質を測定した。また、一週間の COD の変化を観察した。参加者からは、「あんまりきれいだと思っていなかったけれど、測ってみると意外にきれいなんだとわかった。」という感想があった。

身近な自然の中で生き物と触れ合うことを楽しんでもらうことができ、さらに、水質調査を行なうことによって、生き物以外の視点から水辺の環境に対して関心を持つてもらえた。

地域の声

毎年、我々の開催するイベントで子供たちにご指導頂き、ありがとうございます。バサーズさんの「生き物観察会」は毎年大人気で、子供たちがすとても楽しそうな顔をしているのが印象的です。また来年度以降もよろしく願います。

大学生のみなさんのような若い方々との活動は、子供たちにとっても素晴らしい刺激になると思います。今後、地域の子供たちに楽しいイベントを開催して欲しいと思います。

愛西土地改良区 魚住俊介

1 年を振り返って

今年度で我々の活動は 4 年目となった。創立メンバーのほぼ全員が大学を離れ、全く新しいメンバーでの活動であった。しかし、新メンバーを含めた全員が活動の目的を理解し、それぞれが活動の中できつちりと役割を果たすことができた。

啓発活動については、『水路探検隊』イベントを初めて開催した。参加者こそ少なかつたものの、内容としてはとても良いイベントとなった。啓発イベントは参加者がいて成り立つものであるの、参加者を多く募る方法を考え、より多くの人が水辺の環境に親しみや興味を持つような機会を提供していきたい。しかし、単にイベントを開催するだけで終わるのでは意味がない。地域の水辺での課題を見極め、意味のある啓発活動を行なうことを目標とする。

代表 北野大輔



9月13日、14日に八幡堀まつり内のイベントとして、八幡堀DAYを開催しました。
旧西川家住宅には、13日昼112人、夜690人、14日昼239人、夜925人の大勢の方に来場いただき、多くの方に八幡の魅力を発信できたのではないかと思います。
また、夜の公開ではライトアップやあかりんちゅによるキャンドルナイトなどによって、普段とは違った八幡の雰囲気を感じることができ、新たな魅力を発信することもできたのではないかと思います。
さらには、普段は公開されていない伴家の3階部分も公開して説明をすることが出来たので、多くの方に今まで知らなかったことを伝えられ、改めて八幡の良さを発信していけたと感じています。
さらに、八幡堀DAYを開催したことによって、地元の方同士・他地域の方との交流の場を提供することが出来たのではないかと感じています。



このような場を提供して、地元の方の郷土愛の増進にも繋がった活動であったと思います。
つたない説明ではありましたが、大勢の方が真剣に私たち三階蔵部のメンバーの説明を聞いてくださり、とても嬉しかったです。
少しでも八幡の魅力に気がついてくれ、興味を持ってもらえるきっかけとなれば幸いです。

プロジェクト紹介!

私たち三階蔵部は、地域に住む人たちに伝統的建造物を通して見る「近江八幡の魅力」を再認識してもらうことを目的として活動しています。今後も、歴史的価値の高い建造物を、地域資源として生かすことが出来るように活動していきたいです。

発行：三階蔵部

プロジェクト自慢!

滋賀県に3つある重要伝統的建造物群保存地区の1つである、近江八幡市で八幡の魅力を発信していくために、自分たちでガイドをすることができたことが1番の自慢だと思います。このような場でガイドをするという機会はなかなか無く、貴重な体験です。

近江八幡の魅力を伝えるための活動に関わることができ、さらには地域の人たちとの関わりなどを通して私たち自身も、新たな近江八幡の魅力をj知ることが出来たことはとても良かったと思います。



成果と反省!

1年間の活動を通しての成果は、八幡堀DAYなどのイベントを通して八幡の魅力を多くの方に発信できたことです。昨年度のイベントの時よりも、公開家屋を増やしたり、八幡堀まつりと共催したりすることで、多くの方を呼ぶことができ、新たな八幡の魅力も伝えられたのではないのでしょうか。

また他地域の視察を行うことで八幡では学べないことも学ぶことができ、多くの方と交流が出来ました。さらには、楽座メンバーで伝統的建造物に対する知識を共有したり等も充実していたのではないかと思います。
さらに、昨年度は広報不足が課題となっていましたjが、今年度はパネル展を始めとして、デザインカレッジ・フォーラムでの発表や新聞などのメディアにも積極的に働きかけるようにしました。

今後の展望としては、公開建造物の対象を広げたいと思います。
八幡は商人の町並みが有名ですが、商人の町並み以外の八幡の魅力も発信していけたら、もっと多くの方が八幡の良さをj感じるjことが出来ると思います。

地域の声!

▼伴家 出口さんより

「今年度は9月と11月の2回、伴家住宅3階部分の公開事業を実施していただきました。
濱崎先生を始めとした学生の皆様の協力で事業を実施していただき、本当感謝しています。

9月の事業は、八幡堀まつりという近江八幡では唯一、夜の八幡堀界限を楽しめる2日間に実施いただき、西川家住宅や谷田邸の公開もあり大忙しでしたが、今回は皆さんがそれぞれ浴衣姿でお客様をお迎えするという趣向を凝らし、来館した方々を楽しませていただきました。

11月の事業は、観光シーズン真只中の日曜日、午後からの3時間、ガイド付きの特別公開を実施し、お客様が途切れることなく見学していただきました。
濱崎先生の解説ということもあり、地域のボランティアガイド達もとても期待していましたし、学生さんが詳しく説明してくれたとお客様には大好評でした。
また今回は、建物の特徴を解説したパンフレットを準備いただき、お客様はとても喜んでいました。

事業の内容をグレードアップしたり、毎回違うアプローチを試みる姿勢は素晴らしいですが、このような事業は無理をして息切れするより、継続させることも重要です。
近江八幡には大学がないので、学生がこの町で何らかの事業をすること自体が大変貴重で、喜ばれるのではないのでしょうか。
マンネリでは?と思っても、自分たちが楽しめるなら、同じ事を継続させることも大切だったりします。
実は私もいつもそれを念頭に置いて伴家での仕事をしています。
住民や観光客の双方とも年齢層の高いエリアですから、どのような形であれ、学生達の継続した活動がこの地に根付いて行く事を期待しています。

濱崎先生の解説を聞くたびに新たな知識を得られ、随時お客様への説明に反映できて私にはとても有意義な事業となっています。
皆さんが考える近江八幡の良い部分をこれからも発表し続けてくださいね。」





米農家さんとお米作り

とよさらだは、二〇一〇年から、犬上郡豊郷町でお米作りを
されておられる古川さんから、一反の水田をお借りして、お米
作りの体験をさせていただいている。種落としから収穫まで体
験させていただくことで約一年間のお米農家さんの作業につ
いて知ることができた。

今年は、四月六日（日）に種落としをおこない、五月九日（金）に田植えを体験した。
その後、水田に生えた雑草の草刈りを不定期に行った。そして、九月二十一日ついに実つ



田植えの様子

た稲の収穫をおこなった。今年は長雨や日照
不足により、田に生え
る雑草の量が例年と比
較すると、かなり多か
った。そのため、稲刈
りのコンバインを動か
す前に、これらを鎌で
一本一本、刈り取った。
収穫したお米は、秋
の湖風祭で「豚キムチ丼」として、提供した。毎年、
提供しているこの
料理は、定評をいた
だいている。また、

生協食堂での豊郷米販売キャンペーンでも、提供した。
去年は体験できなかった田植えをおこなうことで、一年
間を通して、お米作りに携わることができたのではないか
と知っている。



稲刈りの様子



実った稲

★プロジェクト紹介★

「とよさらだ」とは？

とよさらだプロジェクトは、滋
賀県犬上郡で使われなくなっ
たビニールハウスや耕作放棄
地を用いて、地域の方々に技術
指導を、受けながら野菜を栽培
しているプロジェクトである。
自分たちが栽培した野菜を大
学生協や彦根市の農産物直売
所などに出荷し、販売してい
る。

活動の目的

- 一、地産地消の促進や、安心・安
全である無農薬野菜を提供す
る。
- 二、野菜作りを体験したこととな
い学生に機会を与える。
- 三、地域とのつながりを持つ場を
持つ。



ビニールハウスでの作業の様子

ちよつと聞いてよ！

プロジェクト目録！

★坊っちゃんかぼちゃの栽培★

とよさらだは、昨年、豊郷の特
産品である『坊っちゃんかぼちゃ』
の植え付け準備をお手伝いした。

そして、今年、自分たちで坊っ
ちゃんかぼちゃの栽培をおこなっ
た。十株の苗から約五十個の坊っ
ちゃんかぼちゃを収穫すること
に成功した。出荷することはできなかつたが、坊っちゃんか
ぼちゃを育てるノウハウをつかむことができた。来年は、坊
っちゃんかぼちゃの出荷まで行い、地域貢献していきたいと
考えている。



実った坊っちゃんかぼちゃ

★冬でも野菜を栽培★

とよさらだが、借りているビニールハウスでは、冬でも温
度が保てている。そのため、葉物類の栽培が可能である。今
年は、ネギやホウレンソウ、チンゲンサイ、春菊などを無農
薬で栽培し直売所に出荷することに成功した。

一年を振り返って

今年度の活動成果は、一年を通してお米作りに関わることができたということ、坊っちゃんかぼちゃの栽培に成
功したことなどがあげられる。しかし、そのような成果とは、逆に課題も浮き彫りになってしまったのが現状であ
る。

お米作りでは、種落としから収穫まで体験させていただくことで約一年間のお米農家さんの作業について知るこ
とができた。実際にお米作りを体験したことがない学生もおり、貴重な体験を得ることができた。古川さんとも親
しくなり、多くのお話を聞くことができた。しかし、草刈りなどは、特定の人ばかりが行くなどという連携などに
問題があった。また、坊っちゃんかぼちゃの栽培をしてみても、坊っちゃんかぼちゃの栽培の難しさを学ぶことができた。
肉体的に疲れる作業が多く、人数が必要な作業があるため、とよさらだプロジェクトが坊っちゃんかぼちゃの栽培を
行う場合には人数の確保など、いろいろとこなしにくいのではないかと感じられた。また、今回、収穫ま
ではできたものの、販売の手管が整っておらず、収穫後に実を腐らしてしまった。

また、普段の活動においても、夏場は草刈りの活動が中心になり、野菜の植え付けなどの野菜の世話の作業ができ
なかつた。原因は、作業に集まる人数が少なかつたことと、作業の回数が少なかつたことである。作業の回数が少
なかつたのは、メンバーに作業の連絡がこなかつたことと、それぞれのメンバーが作業の連絡がこないことに対し
て行動を起こさなかつたことである。一方、冬場は、大根、水菜、カブなどの冬野菜の栽培を成功させ、直売所に
出荷できた。これは、週一回の活動をほぼ欠かさずことなく行い、かつ一回一回の作業において、野菜の様子をまめ
に観察したことによって達成できた。また、ベビリーフを継続的に栽培し、生協に継続的に出荷できたことであ
る。

来年度は、メンバー間での情報の共有をしっかりと行い、安定した人手と作業日の確保に努めていきたい。また、
活動を活性化させ、地域貢献していきたいと考えた。

地域の声

とよさらだプロジェクトさんの2014年度
の活動は、豊郷町にとっては大きな効果があつ
たと思います。町が催す数々のイベント等ご協
力賜り、また町内農家の農業についての参画、
町の特産物の坊っちゃんかぼちゃの生産
等々、大変活躍され、行政と農家にとって心強い思いをさせて
いただきました。今後とも引き続き町の発展、活性化にとよさ
らだプロジェクトのお力を貸していただきたいと思います。

豊郷町役場産業振興課 課長 土田 祐司

たけとも 春祭り・夏祭り 開催

たけとも便り だよ

特別号

2015 年
3 月 31 日



5/5

こどもの日 「たけとも春祭り」

春祭りは今年で、三度目となった。今回のお祭りでは、たこ焼き屋台、竹の会所の目の前の浜で「砂だんごチキンレース」を開催した。毎回、このお祭りを楽しみにしてくれている子どもたちと共に楽しい時間をすごすことができた。

また、お祭りの一週間前から現地に赴き、建設から時間がたち生じてきたびすみやゆがみ、各所の竹材の痛みを補修、竹の会所デッキ修理、浜の会所屋根トラス補強などの補修を行った。同時にまち歩きも行い、震災から3年経った町を歩き、復興について考えさせられた。



NEW

バンブーハウス2号建設



「たけとも夏祭り」

夏祭りも春祭り同様に、子ども達に喜んでもらえる建築学生ならではのことを中心に企画した。みんなで花火をしたらと、学生と子どもたちで賑やかな時間となった。地元の方からの「こうして毎年お祭りをやってくれたら、私はこども連れて毎年行きます！今年でも毎年ちゃんと着てるからね！」という言葉ももらい、継続の大切さを改めて実感した。

また、3年目の今年はこのことを考え、地元に愛される空間作りを目標に、竹の会所の敷地の周辺整備を行なった。

今年で、施工時のメンバーがほとんど卒業することもあり、受け継ぎ方を深く考える機会ともなった。

竹の会所

現在、滋賀県湖南市の菩提寺でバンブーハウス2号の建設を進めている。一昨年から、進められてきた竹の庭プロジェクトの活動であり、竹林の整備を進めてきた。2号の建設には、延べ40人の学生が参加し、建設を行なっている。建設中は、地元の人が覗きにきてくれたり、子どもたちの「いつできるの？」などという言葉ももらい、力となった。

4月4日には、オープニングイベントを行なう予定である。

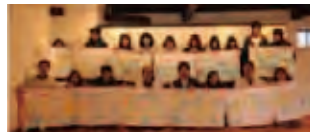


ビッグニュース!

とよさと快蔵プロジェクト 10th anniv.

今年で 10 年を迎えたとよさと快蔵プロジェクト。12 月 27、28 日の 2 日間にかけて、10 年という一つの大きな節目として、現役、OB、OG、まちづくり委員会など今までとよさと快蔵プロジェクトに関わったことのある方を交えてイベントを行った。

イベントでは 10 年間にやってきたことを年表にまとめたものを使って、その時のそれぞれの思いを付箋に書き貼り付けていき、その他にもこれまでの思い出、今の思い、これからについて語りながら、「快蔵のスズメカルタ」の作成を行い、夜には大忘年会をするなど、世代を超えた交流を行った。



ちょっときいてよ!!

プロジェクト自慢

2014 ミツマルシェ

2012 年から始まったミツマルシェも今回で 3 回目を開催! 酒蔵祭りと同時開催の事があって嬉しい事に来場者数が毎年増加傾向に。もしかしたらまちに定着してきた証拠かもしれない! 今年の出店者の方々じゃ滋賀県立大学の生活デザインの方、豊郷のコミュニティハウスの方々が中心だったため、和気あいあいとした感じで去年や昨年とはまた違った雰囲気が味わえた。



とよさと合宿 駐輪場完成!!

今までメンバーが空いてる日で活動を行ってきたが、今回は夏休みの前半と後半で 2 回に分けて 1 週間づつ合宿をしながら一気に改修をするという形をとってみた。その中での活動は今まで改修した物件のメンテナンスが主だったが、加えて 2014 年 3 月にオープンしたシェアハウス兼コミュニティーハウス、「おこうさん」に駐輪場を作成した。作る中でグラつくなどの問題も発生したりしたが、地域の人々に相談したところアドバイスを受け上手く作ることに成功した!



タルタルーガ 七曲リフェスタ

学生自身が改修した蔵で、経営も学生がしているタルタルーガ。地域の常連さんが来てくださる中、興味を抱いてきてくださる新規のお客様がいたり少しずつ知名度が上がっているのでは感じることもしばしば。ときには、とよさたださんの野菜を使ったメニューもあり、他の楽座とのコラボもしている。今年度は七曲がりフェスタというイベントから声掛けがあったため、出張タルタルーガとして参加をし、



まちの方々の声

改めて、この関係が 10 年続いてきたんだなという思いです。この活動を引き続き後輩たちに受け継いで関わっていけたら、ほんとうにありがたいことだと思います。

とよさとまちづくり委員会 K さん

この町に残って頂ける人材を、この町で活躍できる場を提供出来るように共に励んで行ければ幸いです。未長く、よろしくお願いします。

とよさとまちづくり委員会 O さん

来年度も学生とどんどん関わっていきますので、宜しくお願いします。

とよさとまちづくり委員会 M さん



地域の方々との交流

4 月は新入生歓迎会にまちづくり委員会の方々が参加し、8 月のとっと祭り、タルタルーガのビアガーデン、加えて今年の夏には豊郷の小学生たちと通学合宿、秋にはパンプキンフェスタ、オータムフェスタ、他にも様々な町内イベントやスポーツ大会。このように 1 年中、地域の方々との交流が多く、親睦を深めることができる。



成果と課題

今年度は、活動の範囲も広がり、プロジェクトの認知度も増した。また、活動 10 周年を記念したイベントでは、今までの活動を改めて振り返る良い機会となり、まちづくり委員会とメンバーの意識が上がるきっかけとなった。まちとの関わりも深まり、これからの活動の幅も広がっていく。まちの人ときちん対話をしながら、活動を進めていき、まちの人と一緒に豊郷町を楽しみ、盛り上げていく。さらに「学生が住もう」ことを活かし、つながりの少ない中高生や、子供たちを巻き込んだ活動も展開していきたい。

e—モールたがとはfacebookを活用した仮想商店街です。多賀町商工会青年部さんが中心となり、これを通して多賀の企業やお店などを紹介、発信して人々により多賀という町を知ってもらおうという目的の元行われている活動です。私たちTaga-Town-projectは昨年の7月より参加させていただきました。私たちは、e—モール多賀に登録している企業やお店を訪れ、取材をして、得られた情報をfacebookに投稿して人々に広めることで活動に参加しています。この活動を通して私たちの知らない多賀の魅力をj知ることができ、また、この多賀の魅力をより多くの人に知ってもらいたいという気持ちが強まりました。これからも私たちはe—モールたがを活用して多くの人に魅力を発信していきたいと思ひます。

お手伝い引き受けますプロジェクト

TTP が町の人からの依頼を引き受ける、「お手伝い引き受けますプロジェクト」が継続して行ってきました。今年度は、真如寺での花祭りでレクリエーションを行ったほか、ランニングバイクレースでの屋台の出店、水谷での地域おこし協力隊と共同でこんにゃく畑の土寄せ作業を行いました。今後もプロジェクトによって TTP の活動をより充実させ、多くの人に知ってもらう機会にしていきたいと考えています。

八百秀アパートプロジェクト

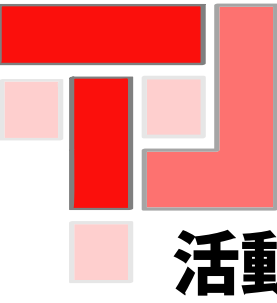
庭改修プロジェクトの一環として、八百秀アパートの庭にシャベルやくわなどを収納する道具箱を製作しました。今回は新1回生にTTPの活動を体験してもらうことも兼ねたワークショップ形式で行いました。木材を少しずつ重ねながら組み立てるという変わった構造な上、メンバーのほとんどが木工初心者でしたが、3日間に渡る作業で無事完成しました。この道具箱によって、八百秀の庭がより作業しやすい場所になりました。

淡路研修

淡路島の多賀、伊弉諾神宮では、滋賀の多賀との類似点や相違点を取材しました。主な類似点としては、多賀大社の古例祭と同じ時期に祭を行っていた、ということです。また相違点は、伊弉諾神宮は歩いて裏側を見ることが出来るということと、伊弉諾神宮には多賀講にあたる存在がないということです。講の有無に関しては滋賀と違い、淡路島は周りが海であるため、島内だけの信仰に留まったのだと考えられます。この淡路島旅行はまだまだ多賀は奥が深いことを再確認するとともに、さらなる興味を沸かせるきっかけとなりました。取材したことを新聞形式でまとめ、ふるさと楽市で配布しました。

各種イベントへの参加

今年度も、多賀町で行われる様々な行事に参加しました。春に行われる古例大祭、秋に行われるふるさと楽市といった多賀町の祭りに参加した他、今年度は多賀町立スポーツ施設B&G海洋センターで開催されたランニングバイクレースにて、模擬店を出店しました。古例大祭では、奴さんや当日準備を行った。10月のふるさと楽市では、企画に携わる実行委員会に参加し、当日も運営及び模擬店も出店した。実際に多賀に行ってお祭りに参加することで、地域の人とコミュニケーションをとる貴重な場となっています。



Taga-Town-Project

活動報告ニュースペーパー

01 ▶Big News e—モールたが活動開始！



02 ▶プロジェクト紹介 平成26年度の活動内容



03 ▶ちょっときいてよ！プロジェクト自慢 特技を活かせる！



04 ▶地元の声 アツい！多賀の人々



05 ▶1年間の活動を通じた課題と成果 情報の共有を！



TTPの活動は「八百秀アパートプロジェクト」「e—モールたがプロジェクト」、「お手伝い引き受けますプロジェクト」、そして様々なイベントへの参加といったように、多岐にわたっています。そのため、それぞれのメンバーが自分の得意なことや好きなことを活動の中で活かすことができます。また、自分たちのやりたいことを企画する事もできるので、積極的につづけられるというのも魅力のひとつです。活動の中で、歴史のこと、自然のこと、コミュニティのこと等、色々な地域についての情報を教えて頂くことができ、またそこから自分の興味を引き出し、発信すること、そして地域を見つめなおし、地域へ貢献することに繋がっていきます。

今年度から始動した新プロジェクトの「e—モールたが」によって、広範囲な地域で新たな人とのつながりができました。それぞれの事業所への思いだけでなく、多賀という町そのものに対する気持ちを語ってくださる人、「e—モールたが」などの現在の事業に関する問題点を挙げてくださる人、TTPのような学生の団体に求めることを話してくださる人など、多くの人々が多賀に対し、熱い思いを持っています。

新プロジェクトの始動によって活動範囲の拡大に向け、一歩目は踏み出せたかと思ひます。このまま、今回の活動のみで満足せず、新たに作った人とのつながりを維持するように努め、今後の活動につなげていきたいです。反省点は多いと思ひます。メンバー全員が情報を共有できていなかったり、一部のメンバーに負担がかかりすぎたりしていました。また、活動のモチベーションを維持できていなかったこともたびたびありました。こうしたことの理由としては、メンバー内でのコミュニケーションがしっかりととれていなかったこと、連絡手段を統一できなかったことが挙げられます。活動の中、あるいはそのほかのことで自分が苦しい時にそれを本音で言えるだけの関係がメンバー内で築けていませんでした。これからは、地域の人々とのコミュニケーションはもちろん、メンバー内でのコミュニケーションも大切にし、活動のモチベーションを維持させ、地域での活動を円滑に進められるように努めてまいります。

木興プロジェクト 2014

宮城県本吉郡南三陸町

歌津田の浦にて復興支援の区切りを迎える。

2014 年 9 月 新しい交流センターの様子



田の浦とは

宮城県本吉郡南三陸町歌津田の浦。リアス式海岸の優れた景観を持つ南三陸町の北西の沿岸に位置する。世帯数 57 戸 人口 404 (平成 17 年度 7 月 31 日) 昔から漁業が盛んで、漁業で生計を立てている家が多く、養殖業ではホヤ、ホタテ、ワカメが獲れ、沿岸漁業では刺網漁でマダラ、カレイ、アキザケ、笹魚ではタコ、白ツブ貝、毛ガニなどが獲れる。

震災時は 10m を越える津波が押し寄せ、死者 14 名、行方不明者 3 名、55 戸が被災した。

田の浦は震災当初、道路が遮断された陸の孤島となり支援車両が通り過ぎた。そのため、ボランティアもほとんど入らない取り残された地域だった。

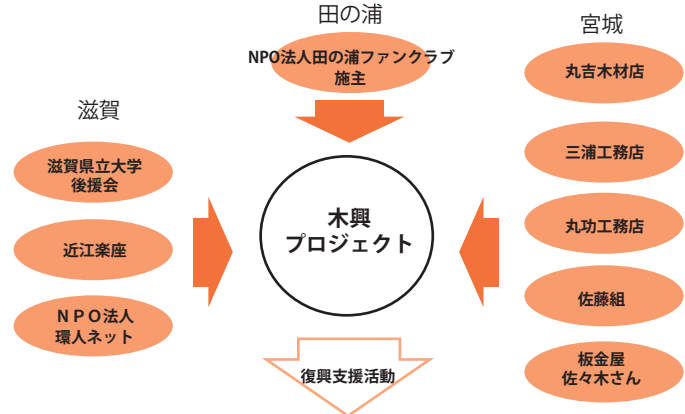
2015 年現在も仮設住居での生活は続いており、高台移転のための工事が進んでいる途中である。また港には 5m の防潮堤が計画されている。

私たちの大学がある彦根から田の浦までの距離は 800 km、車で 12 時間ほどかかる。

木興プロジェクトとは

東日本大震災という未曾有の事態を目の前にし、建築・デザインを学ぶ私たちに何ができるのか、何かしなければという思いから立ち上がったプロジェクト。加子母木匠塾を母体とした、モノづくりによって復興支援を行う団体である。修士一回生を中心に滋賀建立大学環境建築デザイン学科の学生と名城大学柳沢研究室の学生で構成される。

田の浦とのつながりは現地で活動されていた環人ネットの副理事長である田中好一さんの知人である気仙沼市社会福祉協議会の職員の方の紹介がきっかけであった。



2011 年 震災直後の番屋完成時の様子

2011 番屋建設

東日本大震災が起こった 2011 年、田の浦の漁港は津波によって大きな被害を受けており、残されたのは小型の船隻と屋根のない作業場のみであった。そこで再び漁師たちが集まるための場所として番屋を建設することとなった。現在、復興が進み漁港は高上げが行われ、作業場にも屋根がつけられている。仮設としてつくられた番屋は別の位置に移築され、今もなお使用されている。

2012

交流センター建設

2 年目、「応急から復興へ」。田の浦では津波によって村の住人がばらばらになってしまっていた。おじいちゃん、おばあちゃんが集まる場所をつくるため交流センターを建設することとなる。現在、この交流センターが建つ敷地では田の浦ファンクラブにより毎月イベントがおこなわれ、地域の人が集まる場所となっている。

2013

交流センター増設

3 年目、完成した交流センターは半屋外の空間が多く、寒さの厳しい田の浦では壁をつけてほしいという要望がでた。また、より多くの人が集まるように交流センターの増築が行われた。増築部分には建具を設けて、イベント時にも開放的に使用できるように工夫がなされている。

4 年目の被災地

2011 年 3 月 11 日より 3 年の歳月が過ぎ、被災地は 4 年目へとはいっていた。移動中に見る景色はいたるところで行われる大規模な高上げ工事である。田の浦では高台移転の計画が本格的に始まり、工事が行われていた。また新たな防潮堤を築くための計画もある。漁業などの生業も元に戻りはじめていた。

2014 年 3 月、私たちは田の浦での活動を続けるか迷っていた。今、田の浦で学生に求められるものはあるのか？金銭的な問題、引き継ぎの問題などプロジェクトの持続がむずかしくなりつつある。私たちは現地の声を聞くために田の浦を訪れた。また被災地で活動なさっている宮城大学の竹内泰先生、気仙沼でボランティアを受け入れ下さっている佐々木さん、稲荷森さんにご教授をいただいた。

そして私たちは小さくても田の浦の声を聞くこと。今後も田の浦との繋がりを継続するために、活動の区切りとなる年にすることを決めた。なによりも交流センターにはまだ改良の余地があり、そして番屋移築を再び行う必要があった。また 4 年目として『復興』のおわりとは何かについて考えた。

2014 年 9 月 田の浦の高台移転工事の様子



毎月の訪問

田の浦には毎月通うことを決めた。地域の人の声を少しでも多く聞くためである。交流センターでは毎月、田の浦ファンクラブによるお茶会などが行われており、ピザパーティやガーデニングに地域の方々が集まっていた。私たちはそのイベントに毎回参加することで田の浦の方とコミュニケーションをはかることに努めた。

番屋移築

2014 年 4 月、田の浦で活動することを決めた私たちは番屋を移築するための案出しを行った。2011 年度に建てたこの番屋は漁港修復のために一度移築されており、現在は漁港の端のほうに建っている。しかし、今度はこの場所に 6m を越える防潮堤の建設が決まり、番屋が工事の邪魔になっていた。地元の漁師さんたちの「壊すのはもったいない」という言葉から再び番屋を移築することを考えた。

2015 年 3 月、ようやく移築を行うことが決まった。場所はまだ一度漁港の作業場近くである。機能はおなじままで番屋として使う予定だ。震災からちょうど 4 年の 3 月 11 日に移築は完了した。

2015 年 3 月 移築後の番屋の様子



制作活動

夏季制作活動は前半 2 週間、後半 1 週間。冬季制作活動も 1 週間に及んだ。制作は基礎から木加工、建て方まで自分たちの手で行う。地元の基礎屋さんや木材店、板金屋さんの協力も得てなんとか無事に完成させることができた。地域の方々は毎日のように私たちに応援してくれました。



より使いやすい交流センターへ

現地の方の要望は番屋だけではなかった。3 月に交流センターに新たなトイレが建てられたが、一度外に出ないといけないために非常に使いにくいということだった。そこで私たちはトイレと交流センターをつなぐ動線を確保することにした。また、増築された交流センターは施設時に腰を落着ける空間がなかったため、座る場所がほしいとのことだった。そのために半屋外空間に常設のベンチと移動させることのベンチを設計し、敷地前面部のガーデンには日陰になるようにパーゴラを設置することに決めた。

トイレ前の増設工事の様子



5 年目へ

2015 年 3 月 11 日 14 時 26 分。田の浦にて黙祷を行った。東日本大震災から 4 年、被災地は 5 年目へとはいった。学生の中でも震災当時の状況を経験した人が少なくなっている。それでもなお田の浦へ通い続けることはできるのか？

木興プロジェクトはモノづくりによって復興支援を行う団体である。しかし、今被災地で求められているのはモノそれ自体ではない。地域の方々がみな口をそろえているのは「来てくれるだけでうれしい。」という言葉である。私たちはこの 4 年間、継続的に田の浦へ通い、建設活動を行ってきた。今後、これらの活動を続けることが難しくなりつつある。それでも田の浦との繋がりを絶やしたくない。

Apr.	May	Jun.	Jul.	Aug.	Sep.	Oct.	Nov.	Dec.	Jan.	Feb.	Mar.
田の浦定例訪問 4 月 第一回定例 M T	田の浦定例訪問 5 月 プレ木 道具講習	田の浦定例訪問 6 月 プレ木 祠 コンベ	田の浦定例訪問 7 月 昆虫観察会	海の運動会	後期サマースクール 前期サマースクール	未来看護塾イベント 玉川小学校「命の学習」	田の浦定例訪問 2 月 湖風祭	クリスマスイベント	田の浦新年会	田の浦定例訪問 2 月	キャンドルナイト 番屋移築

かみおかべ古民家活用計画

— SLEEPING BEAUTY —



9月18日から20日までの3日間、拠点としていたかみおかべの古民家の離れの改修を行いました。1日目よ2日目は離れの壁塗り、廊下のペンキ塗り、台所の照明取り付けをそれぞれ手分けして作業しました。3日目は障子の張り替えと廊下の床磨きを行いました。

かみおかべのメンバーと賑やかに取り組んだ改修作業は大変な事もありましたが、とても楽しかったです。



大改修



太鼓登山

太鼓登山は、毎年4月に行われる上岡部町の伝統行事です。太鼓を台車に乗せて、荒神山の中腹にある稲村神社まで運んでいきます。この行事に参加して地域の方とたくさん交流でき、来年も是非参加したいと思いました。

ピザパーティー

6月22日の「みんなであくわくピザパーティー」では、かみおかべSBに上岡部町に住んでいらつしやるの皆さんをお招きして手作りのピザを食べるという交流会を開催しました。各部屋にゲームを設置し、学生たちとゲームを楽しみながらかみおかべSBの中を探検してもらうというレクリエーションも用意しました。



年間スケジュール

- 四月
● 太鼓登山参加
● 新人生歓迎会
- 五月
● 庭の草刈り
- 六月
● ホタル鑑賞会参加
● ピザパーティー
- 七月
● 棚の整理
- 八月
● 地蔵盆
● 外壁改修
- 九月
● 古民家大改修
- 十月
● ひょうたん絵付け
- 十一月
● 湖風祭出店
● かみおかべお茶会
- 一月
● 餅つき大会
- 一年間継続
● 野菜作り
● ひょうたん作り

餅つき大会

1月31日におもちつき大会を行いました。初めておもちつきをする男の子はお父さんと一緒にしていました。みんなであつたおちはあんどやきなこ、手作りのかぼちゃ餡と一緒に食べました。食後には稲枝かるたを使ってカルタ大会をしました。地域の方と学生が楽しめるイベントとなったと思います。



ひょうたん・畑作り



上岡部町の地域の方と共にひょうたん作りに取り組みました。足場作りやネット掛けなどをして育てた結果、立派なひょうたんを200個収穫することができました。しかし、種出し、乾燥をして割れずに使えたのは、たったの50個。この50個のひょうたんにはマーブリングの装飾を施し、古民家の飾りや活動PRに使用していきます。

また、畑では小泉かぶらを育てました。しかし、葉を虫に食われ思うように育てられず、伝統野菜を作ることの難しさを感じました。

今後はひょうたんの新たな使用法の考案、ひょうたん畑の主體的な運営を課題に活動していきたいと思っています。

一年間のまとめ

今年はひょうたん作りでお世話になったこともあり、地域の方との交流が広がった一年でした。地域の方にひょうたんの作り方を一から教えていただき、上岡部町の文化祭にも出店させていただきまし。また、イベントでは、いつも楽しみにしている、という声をいただくことができました。これからも地域に寄り添った活動をしていきたいです。



祝！県博協から表彰！



地域博物館だより

昨年7月、滋賀県博物館協議会より我が地域博物館プロジェクトが表彰を受けた。設立当初から取り組んでいる白谷荘歴史民俗博物館での活動や、昨年度の近江八幡市ヨシ博物館での文化財レスキューなどが評価されたことだ。

本プロジェクトとしても外部団体からの表彰は初めてのこと、非常に喜ばしいことである。プロジェクト代表は表彰を受け、「この表彰は現メンバーだけではなく、これまで活動に携わってきた先輩方や地域の方の力があつたからこそのものである。皆さんへの感謝の気持ちを忘れずに、今後も地域のために活動していきたい。」と語った。

これまで、度々外部へのアウトプットの機会の少なさを指摘されてきたが、今年度は湖風祭での学生や一般向けのパネル展示だけではなく、滋賀県博物館協議会と連携して日本人大学生や留学生を対象とした「体験型地域発見ツアー」の企画を担当し、当日の進行も務めた。今年度から代表も代替わりし、新たなスタートを切った「地域博物館プロジェクト」。まだまだ未熟な部分も多いが、未熟ゆえに今後の成長が楽しみなプロジェクトであるといえよう。今後のスチューデント・キュレーターズの活躍に期待したい。



地域博物館プロジェクトって？

このプロジェクトの目的は、民具や古文書、お祭などの「地域文化財」を活用して、「地域」博物館をつくることである。さらにその中で、地域の魅力を再発見することをねらっている。

現在の主な活動地は、高島市マキノ町の白谷荘民俗資料館、長浜市曳山博物館、彦根市高宮町不破氏邸宅、守山市下之郷町、ヨシ博物館の五カ所である。各地域で、地域博物館づくり、博物館展示のお手伝いをしている。

チーム名は「StudentCurators（学生芸員）」が本来であるが、英語が苦手な前代表の陰謀でカタカナ表記になったともいわれている。



地域の声

口膨大な古文書・教科書・民具等を前にどのようにして維持をしたらよいのかと困っていたところ、大勢の学生さん・先生方にご協力していただき非常にありがとうございました。

夏は暑い炎天下の中で汗と埃とすすで真っ黒になりながら作業、寒い雪の降りしきる中で手を真っ赤にして寒さに震えながら作業を進めてくださいました。

このような活動が周りの皆さんに当館について、より関心を持っていただくことに繋がり、単に民具等の整理・展示・建物の維持保全だけでなく、地域のコミュニティ・観光への広がり・地域文化の保全へと広がっております。

学生の皆さん・先生方の指導協力のもと、湖西地域の博物館として、より地域にねざしたしたものにして、忘れ去られようとしている地域文化を守り、さらに地域の交流の場になれるようになればと考えています。県立大学の大勢の学生さん・先生方には本当に感謝しています。

白谷荘歴史民俗博物館 川島光男さん

ちょっと聞いてよ！プロジェクト自慢！

◎いろんなところに行ける！

→白谷、奥伊吹など県内の様々な地域で活動しています！

◎他ではできない体験ができる！

→貴重な資料に触れることができたり、博物館の裏側に潜入できたり…

成果と課題

今年度は、奥伊吹事業とツアー企画事業の2つを新たに手掛けた。また、トップニュースでも触れたように、県博協から表彰を受け、我がプロジェクトの活動が評価されたのは大きな成果であったといえる。

一方で課題となったのは、学生の人手不足である。スケジュールが合わず活動になかなか人が集まらない、活動の日や場所によって参加人数にばらつきがある、などの問題がよくみられた。また、今年度から代表が代替わりし、1・2回生が中心となって動いているため、調査効率が悪いという問題もある。今後は、安定した人手の確保と、今まで十分とされてきたインプットにも努めていきたい。

燃料化を目指し本格的なひまわり栽培開始

油は油藤商事さんの協力によりバイオ燃料化され、フオークリフトとトラックに利用された。この作業により運搬を行った近江ブランド米が被災地に届けられた。

(左)種まきイベントの様子 6月1日
(右)ひまわり栽培の様子 9月2日



今年度は、京都BIMAXO地球温暖化対策協議会主催の「ひまわりエコプロジェクト」に参加し、ひまわりの本格的栽培を開始した。このプロジェクトは、東日本大震災の被災地である宮城県鹿折市より譲り受けたひまわりを滋賀県内で栽培し、その種から作成したバイオ燃料を有効利用して被災地に貢献するプロジェクトだ。

大津市比良町で行われた種まきイベントでは、一般参加者も含め百名以上の参加があり盛況であった。「なの・わり」の畑では、6月中旬には、種まきを行い、台風による被害もあつたが無事種を収穫することができた。最終的には、プロジェクト全体で13kgの種を収穫し、2.3リットルの油を収穫することができた。

フラワーエネルギー

「なの・わり」



フラワーエネルギー「なの・わり」では、植物を使った「資源循環型社会の形成を目指し、菜の花・ひまわり栽培や、授業・イベントを通して環境やエネルギーに関する啓発活動を行っている。

菜の花栽培 収穫量増加

例年行っている菜の花栽培では、前年度の反省も踏まえ、雑草対策を行った結果、前年度の油作成果量2リットルから、2.8リットルに増やすことに成功した。

菜種油は農家の方との「天ぷら会」や学園祭などで利用し、使用後の廃食油をバイオ燃料として農業機械などで利用することで資源循環を行う。

来年度は有機肥料により土壌改質を行い、収穫量の増加を目指すとともに、油の利用先を広げる予定だ。



菜種収穫の様子=6月18日、休耕田にて

今年は3校の小学校へ訪問

「なの・わり」では、地域の子供たちへの環境啓発活動として小学校出前授業を行っている。今年度は稲枝西小学校、平田小学校、若葉小学校で実施し、合計百名以上の生徒に授業を行った。授業内容は、地球温暖化やバイオディーゼルについての講義や、手のひらで発電する実験を実施した。授業後のアンケートでは、子供たちから「地球温暖化は二酸化炭素のせいだとわかった」、「バイオディーゼルは花からできていることが分かった」、「もっと実験がやりたい」などの意見が多く、授業を理解してもらえた反面、実験内容が少ないことがわかった。これをふまえ、来年度は実験内容を増やすなどして授業内容を改善していく予定だ。



手のひら発電体験の様子=9月30日、稲枝西小学校にて

湖風祭 自転車発電体験好評!

大学の学園祭である湖風祭にて、自転車発電と手のひら発電の体験を行った。今年度の自転車発電では、自転車をこいで発電している時だけポータブルゲームができる出し物を行った。子供たちに、普段遊んでいるゲームをするためにはどれだけ電力が必要なのかを感じてもらったことが狙いだ。訪れた子供たちからは、「疲れた!」や、「楽しいけどしんどい!」という声が多く、エネルギーについて少し考えてもらえたのではないかなと思う。



ゲーム体験の様子=11月8日、滋賀県立大学にて



サツマイモの素揚げの様子=11月8日、滋賀県立大学にて

高大連携授業今年も実施

大学に高校生を招いて行う高大連携授業は、実際に実験などで理科に興味を持ってもらい、理科離れを解消するために毎年行っている。今年は、虎姫高校の2年生を対象に、バイオディーゼル製造実験や、エンジン内燃焼のカメラ撮影実験などを行った。作成したバイオディーゼル燃料は、バイオディーゼルカートに投入し、実際にカートに乗って利用した。この活動は、バイオディーゼルの普及と次世代の理系学生育成のためにも、今後も継続して行う予定である。



カート試乗の様子=8月21日、滋賀県立大学にて

成果と課題が浮き彫りに

今年度は、菜の花の収穫量を増やすことができ、菜種油からバイオディーゼルの利用までの資源循環を達成することができた。また、ひまわりBDFプロジェクトへの参加や、訪問前例のない小学校での出前授業など、新規の活動を精力的に行うことができた。それにより、環境活動を行っている団体との交流を通して、メンバーの知見が広がったことは大きな収穫であったといえる。

その反面、近江楽座他団体とのコラボ活動や、研究室メンバー以外の人員が確保できず、学生間の横の広がりがないことが残念だった。また、バイオディーゼル燃料の利用先として、トラクターなどの直接農業に利用できない用途が確立できていないことが課題である。今後は、近江楽座他団体との交流を増やして、菜種油やバイオディーゼル燃料の利用用途を増やしていきたい。

たのうら便り～震災から4年を迎えて～

発行：田の浦ファンクラブ
学生サポートチーム
発行日：2015年3月31日

プロジェクト紹介

宮城県南三陸町歌津田の浦をフィールドに、東日本大震災で被災された人々との交流活動を行います。月に1度の定期訪問に加え、海の運動会、クリスマスイベント、キャンドルナイト、看護学生との健康促進イベントの年に4回、大きな地域復興イベントを開催します。また田の浦の方々との交流を通じて感じたこと、学んだことを滋賀に持ち帰り啓発活動を行うことで、滋賀のみなさんの被災地への関心を高め、記憶の風化を防ぎます。

海の運動会



プログラム

- ・障害物競走
- ・ストラックアウト
- ・玉入れ
- ・ウニとり競走
- ・綱渡り
- ・海の幸BBQ

クリスマスイベント



プログラム

- ・ケーキ作り
- ・フェルト刺繍WS
- ・イルミネーション点灯
- ・餅つき
- ・抽選会
- ・懇親会

キャンドルナイト



プログラム

- ・ブロックキャンドル作り
- ・ビンキャンドル作り
- ・キャンドル点灯
- ・黙祷（3/11 14:46）
- ・懇親会

おちゃっこ会



スケジュール

- ・4月：がんづきパーティ
- ・5月：ホヤピザパーティ
- ・6月：ホヤ餃子パーティ
- ・7月：ハーブスムージーパーティ
- ・9月：カラオケ大会

プロジェクト自慢

5月から12月にかけて旬を迎える田の浦のホタテは分厚くてジューシーで絶品です！一度食べたらスーパーのホタテでは満足できないほど。是非一度田の浦へ!!!



地域の声

みんな、何回も来てくれてありがとう。海の運動会は本当に盛り上がったし、来年の夏もまた是非来てもらって、一緒に楽しみましょう。今の時期（3月訪問時）はワカメしか獲れないけど、夏になればウニも、ホタテもいっぱい獲れるから、海の幸を楽しみに是非また来てほしい。本当にみんな、ありがとう。私が代表として言っているが、皆そう思っているから。是非また来てちょうだい。

（NPO法人田の浦ファンクラブ

代表理事 佐藤 久次）

ビッグニュース



1年間の活動をまとめたカレンダーを作成しました！興味のあるかたは是非ご購入ください☆

成果と課題

1年間の活動を通して、たくさんの田の浦の方々の笑顔に出会うことができました。一方で、甚大な被害を出した2011年3月11日に起きた東日本大震災のことを、これからも忘れてはいけなと改めて感じました。

事業に関しては、昨年度は現地の方々のニーズをあまり深く考えずにイベント内容の企画等を進めてしまっていたのですが、今年度は「どうすれば現地の方々が喜んでくださるか」を第一に考え、活動することができました。

「また何回でも来てちょうだい」と言ってくださる現地の方々の声もある中で、復興支援という活動をいつまで続けていけるのかということが、今後考えていかなければならない点であると感じています。



信・楽・人



信楽は、
楽しんで
人が成長する。

信・楽・人
って？

信楽町長野地区、信楽焼を製造している窯元が多数ある焼き物のまち。学生はこの独特な場所です。ここでしかできないことを自らが提案し活動しています。

毎年4月は窯元散策路で3日間イベントが行われる。各窯元の工場や職人と直接会話で自分に分かった信楽焼がきつと見つかる。そんな魅力たっぷりのイベントです。信楽人はこのイベントで毎年人気のある陶ビーズラリーの陶ビーズを英山窯、谷寛窯で作らせていただきました。陶ビーズは一日一〇〇人限定で私たちは約五〇〇の陶ビーズを作りました。私たちの作った陶ビーズはひとつひとつが違ったデザインで地域の子供や観光客の人たちはどれを選ぶか迷い

ながら楽しんでいました。また、このイベント期間では飲食



陶ビーズラリーをする子供たち＝山熊広場

のできる場所が少ないということとで昨年に引き続きワッフルの販売をさせていただきました。ワッフルは窯元にとっても人気で一〇個二〇個と注文が入り、どちらも十分に皆さんに楽しんでいただくことができました。

今年度は信楽人主催でイベントの企画を進めました。窯元散策路は山の中にあり、「登り窯」という窯が多くあります。この「登り窯」は信楽焼の発展を支えた重要なものであり、歴史があります。しかし、これらの登り窯は現在使われておらず保存状態もよくありません。そこで、窯元散策路の登り窯の地域保存と若い世代の信楽への関心を目的とした企画を5月から9月にかけて進めました。私達は信楽の地形、資源に注

目し、「そうめん流し」を企画しました。子供から大人から参加しやすく、散策路や信楽焼に触れることもでき、窯元の協力の下、窯元の作る器でそうめんが食べれる地域資源と信楽の魅力を合わせたものです。実施までには大学でのプレそうめん流しを実施。実際にできるか、どのように流すか、何を流すのか、メンバー以外の学生も巻き込んで楽しみながら考えました。広報もSNSでの告知の他、チラ



竹を切り大学へ運ぶメンバー＝犬上川

シを制作し信楽の学校、窯元に置かせていただきました。そして、一番大切なのは信楽焼で食



そうめん流しのポスター

べることで、窯元散策路のWAの窯元19の内16の窯元が器の提

供に協力していただき、約150もの器が集まりました。

8月にはハーモニーと陶芸体験を信楽の陶芸の森で実施しました。外部の子供たちに陶芸を楽しんでもらう機会をつくり、親

や学生にも陶芸に興味を持っていただきました。参加人数は子供と学生で50人。学生が子供たちに付いて一緒に器を作りました。普段集中力のない子供たちも最後まで飽きずに楽しんでいて、「こんなに子供たちが上手に作るとは思わなかった。」とおどろいていて、来年もやりたいと言ってくれたことは嬉しかったです。



陶芸体験をする子供たちと学生＝陶芸の森

●ここだけ。

信楽に行くと、地域の方は珈琲とお菓子をよく出してくれます。珈琲はとってもおいしく、つつい地域の方と長話してしまふ。そんな独特な時間の流れがあります。

●地域の声

ワッフルの販売や陶ビーズの製作など来客の方に喜んでいただき、私たちもとても評価しています。これからも、信楽の街づくりと一緒に考え作り上げていけたらと切に願っています。

(谷寛窯)

今年度はこれまでの活動の成果を実感することができました。多くの地域の方に信楽人が認知され顔を覚えてくれるようになりました。おかげで企画を提案した時の協力は昨年度に比べるととても増え、沢山の方にお世話になりました。おかげでメンバーの個々の活動や取組に対して責任感が表れ、今まで以上に一人一人が積極的になりました。また大変な時期でありましたが、大きな事故が起きてしまい、とても活動に戻る状態ではありませんでした。しかし、地域の方は私たちを自分たちの子供の用に心配してくれ、多くの学校の先生に助けていただきました。支えていただいた皆さん。本当にありがとうございました。

信楽人では現在、愛荘町にあるCCC工場で販売する。信楽焼の商品開発を行っています。そして、4月にの窯元散策路のイベントにも参加予定です。これから信楽という素晴らしい場所で、信楽の魅力を伝えていきたいと思っています。



ひこにゃんと一緒に イベント開催☆

2015年2月14日のバレンタインデーに彦根のキャスルロードでキャンドルナイトを行いました。主催は彦根観光協会の方です。当日は残念ながら悪天候のため、あかりんちゅが担当していた場所のキャンドルナイトは出来ませんでした。しかし、彦根観光協会の方のキャンドルナイトとあかりんちゅのハンドベル演奏でイベント自体は決行することが出来ました。また、今回はひこにゃんと一緒

にハンドベルを演奏を行い、たくさんのお客さんに訪れていただくことが出来ました。今年度は秋の彦根キャンドルナイト、今回のバレンタインキャンドルナイトも悪天候が続き、大イベントが不完全燃焼となってしまいました。来年度は、天候に恵まれ、あかりんちゅのエコキャンドルでのキャンドルナイトを期待したいです。



一年間の成果と課題

今年度は、ほぼ毎月イベントを行うことが出来ました。また、近江楽座や企業などとの共催も多く、いろんな人と関わることが出来ました。あかりんちゅを知ってもらうきっかけとしては、HPやブログの影響が大きいようです。今年度はツイッターやブログなどもしっかり機能させることが出来たように思います。また、それぞれのイベントの中での成長も見られます。子供向けにあかりんちゅの活動を紹介する紙芝居や活動パネルの制作、キャンドルの火が消えないための風除けのツールを作ったりもしました。しかし、

反省点も多く見られます。数多いイベントをこなすだけになってしまい、あかりんちゅの活動意義をしっかりと伝えることが出来ませんでした。次年度は、あかりんちゅの方針にあったイベントを見定めて、準備に余裕をもたせ、一つ一つのイベントの質を高めていきたいと考えています。また、あかりんちゅ主体のイベント、商品開発の方にもっと力を入れたいと思います。これからもあかりんちゅという団体をより良いものにし、支えてくださる方々に感動を与えるような活動をするため、頑張ります。



あかりんちゅは「エコでスローな夜を」をスローガンに今年も活動を行いました。写真は、秋の湖風祭のキャンドルナイトです。

project

私たちは、寺院や結婚式場等から頂いた残燭をリサイクルし、キャンドルを作り、地域でキャンドルナイト、キャンドル作り教室、キャンドルの販売を実施し、エコでスローな夜を広めようと活動しています。人々にリサイクルの姿勢を伝え、廃棄されるはずであった燭燭を再利用することで、地域の残燭の有効利用に繋がります。また、キャンドルナイトを実施することで地域の人々が集える癒しの場を地域に創り出します。

続々、NEWキャンドル!!

あかりんちゅの自慢といえばやっぱり可愛いオリジナルキャンドルが自分で作れることです。今年は春に桜キャンドルをつくり、夏にはひまわりキャンドル、昨年好評だったかき氷キャンドル、秋のミツマルシェではハロウィンキャンドルを販売しました。あかりんちゅでは、そんな可愛いキャンドルと一緒に作るキャンドル作り教室も行っています。機会があれば是非是非ご参加ください。また、来年度は商品開発に力を入れたいと思っています。更なる進化を遂げたキャンドルをご期待ください。キャンドル販売は、生協や湖風祭、その他のイベント、他の楽座さんでの委託販売などで行っております。



local voice

彦根キャンドルナイトとあかりんちゅ

彦根キャンドルナイトとは平成19年彦根城を中心として開催した、国宝彦根城築城400年祭で実施されました。1回目は平成18年大晦日にカウントダウンイベントとして、2万灯のキャンドルが灯りました。当初は彦根観光協会が主体となり開催していましたが、平成20年より彦根キャンドルナイト実行委員会によって実施されています。あかりんちゅが参加したのは、このときからで当初はただ単純にキャンドルを並べ、あかりを灯すだけでしたが、翌年より自らの申し出により各テーマを設定し、描く絵をデザインし、光が織りなす幻想な世界を作り出してくれました。このことにより彦根キャンドルナイトは、他のキャンドル

ナイトとは違うイベントとして育ってきました。また、どのように設置すれば効果的か、視覚から得られる光により人がどのように感じられるか、といった学生ならではの研究を行い、イベントに反映してくれました。今後もあかりんちゅにより素晴らしいキャンドルナイトを実施してくれるものと期待しております。
(彦根キャンドルナイト実行委員会 / 中村明夫様)

おとくらしんぶん

2015年
3月31日

おとくら5年目突入

今年度でおとくらプロジェクトは発足五年目を迎えた。昨年と同様に行われているギャラリート展示や喫茶営業、コンサートなどのイベントはより安定するようになり、新たな試みに挑戦する余裕が見えてきた。特に今年は五周年ということもあり、蔵の中に留まらない外へと向けたイベントにも取り組んだ。

その一つがスタンプラリーである。スタンプの設置場所にはそれぞれ高宮町や高宮のお店に関連した簡単なクイズを用意して、イベントはメンバーの手作りスタンプで行った。コンサートでは大人に向けたイベントになるこ



2014. 10. 25 スタンプラリー

地域と来客者の

高宮周辺の高宮商いマップを制作するにあたり、二十四店舗のおとくら周辺の高宮のお店へ訪問し、アンケートを行った。アンケート内容はお店紹介のための資料である。高宮には様々な種類の店舗が存在し、お店の人もユニークな方々であたたかい人柄の人ばかりであった。その際、おとくらについて聞くと、「開店している時間が少ないので、気にはなるが時間がないのでお店に行くことが出来ない」ということ

とが多かったが、今回のスタンプラリーでは地域の子供たちが多く参加する企画であったと言える。同時にこのイベントのクイズを通して、子供たちが自分たちの住む高宮町のことを知れる機会にもなったように思う。もう一つは、近江楽座『あかりんちゅ』さんとの共催で行ったキャンドルナイトである。「おとくら5th」という文字やコーヒーマシンや音符のロゴを、たくさんの方のろうそくを地面に立てる形で描いて点灯した。高宮寺で行われたキャンドルナイトは二時間も満たないものだったが、小さい子供がいる家族連れが多く訪れた。

2014. 10. 25
キャンドルナイト

「声」

また、おとくらに来られる方は、常連さんか中山道を観光に来られた方がほとんどである。そのため地域の方々とはまだまだ交流が浅い。また、おとくらに来られる方々のお声として「入りにくい」といったものや、中山道を歩いている方は「ほかにカフェがないからうれしい」という声がある。一度は入れば過ごしやすいのも事実ではあるため、この問題を改善するためには、おとくらの利点を活かす更なる目標、アイデアが必要である。

おとくらプロジェクトってなに？

おとくらプロジェクトは、彦根市高宮町にある古民家を改修し、高宮町のコミュニティスペースとして、地域の人々との交流を深めるために活動している。高宮町は旧中山道の宿場町として発達した歴史あるまちで、江戸時代から栄えてきた場所である。

オーナーの加藤義明さんをはじめ、滋賀県立大学非常勤講師の中西茂行先生の指導のもと、学生の力で改修をはじめた。平成二十一年夏に改修が終了し、現在も少しずつ形を変えながら受け継がれている。

おとくらとは「音」と「蔵」を組み合わせた造語であり、蔵のもつ温かくて落ち着いた空気の中で、学生や地域の人々、作家さん、中山道を歩く人々などがつながり、交流する場所でありたいと考えている。蔵ではコンサートなどのイベントを定期的に開催し、併設したギャラリースペースでは、月ごとに様々な作家さんや学生の素敵な作品が展示される。そして中央の喫茶スペースでは、お客さんとは、お客さんとは、様々な話をするなど、交流の場としてつながりを広めている。



普段の蔵の様子

イベントのパワーアップ↑

この一年の成果は、一つ目は五周年として様々なイベントを活発に行うことができた、地域とのつながりの場としての活動が出来たことである。毎年行われている高宮サマーフェスティバルを始め、クリスマスコンサートは五周年ということで滋賀県立大学のアコースティックサウンドクラブに出場を依頼し、大いに盛り上がった。そして様々な方々におとくら五周年を祝したコンサートを開いていただ

おとくらプロジェクトの活動は、ただ喫茶でコーヒを入れてお菓子をお出しするだけではない。絵画などの作品の月ごとに変えて飾っているギャラリーに、コーヒを飲むことはもちろん、ギターやピアノの「おと」を奏でることができる「くら（蔵）」も私たちおとくら喫茶の一部である。

なかでも蔵は色んな人に貸してイベントをするスペースとして活用しており、たとえば昨年十二月には、アコースティックサウンドクラブによるクリスマスライブが開催された。その日はライブを聞きに来たお客さんやアコースティックサウンドクラブの部員やおとくらメンバー、いつもおとくらを支えて下さっている方々で蔵は超満員となり、暖かな照明の小さい蔵で美しい音が響きました。ライブの演奏もすべて生音とすることで、楽器の本当の音や歌声をそのまま耳にすることができた。これは、演奏者とお客さんの距離が近いことはもちろん、「蔵」という静かで音がよく響く空間だからできたことではないかと思う。そしてライブの後には、参加して頂いた演奏者に温かいココアラテを提供したのがとても好評であった。学生が開催するイベントを通じて他の学生にもおとくらを知ってもらえる

クリスマス

機会になったと言える。おとくらプロジェクトをやっていくなかでの自慢はまだたくさんあるが、学生や地域の人が集まって盛り上げられるような、無限の可能性を秘めた蔵がその自慢できる部分の一つである。今後も一般の方や学生に利用してもらうと同時に、コンサートに積極的に関わりたい。



2014. 12. 20

↑クリスマスコンサート

←クリスマスコンサート用パンフレット



いた。

今後の課題は、地域との関わりが希薄であることであるため、そこをどうやって密接したものにしていくかである。そして地域にどのように貢献できるかを考えていきたい。大学生であることの強みを地域の人とより共有出来るようにしたい。また、大学生がおとくらで活動することにより、地域とともに学生が成長する場にするためチーム一丸となって様々な事柄に挑戦したいと思う。